

家庭科学習指導案

指導者 堀内 愛

- 1 学 年 第5学年2組 28名
2 題 材 名 物を生かして暮らし方名人になろう！
3 題材の目標

【家庭生活への関心・意欲・態度】

○整理・整頓や清掃，環境に関心を持ち，身の回りを快適に整えようとする。

【生活を創意工夫する能力】

○整理・整頓や清掃の仕方について手順を考えたり，物の使い方について工夫したりすることができる。

【生活の技能】

○身の回りの整理・整頓，汚れの種類・汚れ方に応じた清掃ができる。

【家庭生活についての知識・理解】

○整理・整頓の必要性や清掃の仕方，環境を考えた物の使い方などについて理解する。

4 題材について

- 本題材は，次に示す学習指導要領内容C「快適な衣服と住まい」（2）「快適な住まい方」と，学習指導要領内容D「身近な消費生活と環境」（2）「環境に配慮した生活の工夫」について学習するものである。

C 快適な衣服と住まい

（2）快適な住まい方について，次の事項を指導する。

ア 住まい方に関心をもって，整理・整頓や清掃の仕方が分かり工夫できること。

D 身近な消費生活と環境

（2）環境に配慮した生活の工夫について，次の事項を指導する。

ア 自分の生活と身近な環境とのかかわり方に気付き，物の使い方などを工夫できること。

現代の子どもたちは，たくさんの物に囲まれて生活している。また，ほしい物を簡単に購入できたり，与えられたりする環境で育ってきている。そのため，持ち物は増えていき，物のありがたさや大切さを深く考えることなく生活し，物を乱雑に扱ったり有効に使わなかったりしている。持ち物の多さは，整理・整頓にも支障をきたしている。整理・整頓や掃除などは学校や家庭で日常的に行っているが，日頃から意識して実践している児童は少ないと思われる。そして，必要なものは捨てればよいという意識から簡単に廃棄している。CO₂削減が叫ばれている現在においてもゴミは増加し，環境問題は深刻な社会現象となっており，意識の改善が求められている。

本題材では，自分の持ち物を見直す活動から課題を見つけ，物の整理や置き場所を決める活動から始める。次に，整った状態を保つための整頓や掃除の仕方を学習したのち，家庭での実践へと移っていく。そして，不用品の活用を工夫したり，ごみを適切に処分したりする方法を学習することによって，資源や環境問題を自分の生活と関連付けて考えられるようにしていきたい。

- 事前アンケートによると，「あなたは，日頃から持ち物の整理・整頓をすることができていますか」という問いに対して，61％の児童が「はい」と答えている。また，「工夫して整理・整頓をしていますか」という問いに対しては，46％の児童が「はい」と答えており，「種類ごとに分けている」，「取り出しやすいように置いている」，「使う頻度に分けて置いている」などという答えが返ってきた。「家庭において，自分が使った物を片付けることができていますか」という問いに対して，79％の児童が「はい」と答えている。「家族で使う物や場所を整理・整頓したり，掃除したりしていますか」という問いに対して，「はい」と答えた児童は82％であった。「だれが主に整理・整頓や掃除をしていますか」（複数回答可）という問いに対しては，

「主に自分」と答えた児童は11%で、「自分と自分以外の人」と答えた児童は60%で、「主に自分以外」と答えた児童は29%であった。「自分以外」の内訳としては、「お母さん」が最も多く64%で、次に「おばあちゃん」が29%、「お父さん」が14%と続いた。

以上の結果から、家庭において、自分が使ったものを片付けていると意識している児童が多いことが分かった。しかし、自ら進んで片付けたり整理・整頓をしたりしているとは言いがたく、家族の誰かがやっている場合が多い。学校生活においても、机の中やロッカーなどの個人スペースだけでなく、ほかの児童との共有スペースにまで自分の荷物を置いてしまったり、そのまま片付けなかったりする児童がいる。このことから、使い方を考えたり、自ら進んで整理・整頓をしたりすることが苦手な児童が多いといえる。

また、三原市小学校教育研究会の家庭科部会において、各小学校の保護者へのアンケートをしたところ、家庭科の教育を通して子どもに身につけさせたいこととして、「整理・整頓」が上位に挙がった。これに対して児童は、整理整頓に対しての関心が低く、保護者の願いと児童の思いとの差が大きくあることが分かった。

これらの児童の実態や保護者の願いを生かし、家族の一員として整理・整頓や掃除に取り組んでいける児童を目指し、家庭との連携を図りながら学習を進めていきたい。

- 指導にあたっては、児童にとって身近な題材を取り上げ、整理・整頓の必要性を気付かせていく。次に、なぜこのような状態になるのか原因を考えさせ、問題点の解決方法を見つけていき、どのような工夫を行うことができるか実際に体験させることで、基本的な技能を習得させる。そして、どのような場所でも活用できる整理・整頓の技能を考えさせることで、家庭においても実践できるようにしていく。さらに、環境を考えた使い方や不用品の活用へと広げ、地域の一員として必要な知識や技能を身につけさせていきたい。

5 題材の評価規準

家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・理解
整理・整頓や清掃、環境に関心をもち、身の回りを快適に整えようとしている。	整理・整頓や清掃の仕方について手順を考えたり、物の使い方について工夫したりしている。	身の回りの整理・整頓、汚れの種類・汚れ方に応じた清掃ができる。	整理・整頓の必要性や清掃の仕方、環境を考えた物の使い方などについて理解している。

6 指導計画（全7時間）

次	時	学習内容	期待する児童の意識の流れ	評価規準（評価方法）
一 次	1	< 物を生かして 暮らし方名人になろう！ > 身の回りの物を見つめよう！ ○身の回りの物が散らかっている状態を見て、問題点に気付く。  たくさん物が出ていたら、使いにくいし、どこに何があるか分からなくなるんじゃないかな。		・身の回りの物に関心をもち、快適に整えようとしている。 【家庭生活への関心・意欲・態度】 （発言・ワークシート）



見た目も悪いし、友だちを招待できないな。
何か、整理・整頓のポイントってあるのかな。

身の回りを使いやすくしよう！

- 2 ○整理するために必要なことを考え、整理のための手順や方法を調べる。



物がどんどん増えていくから、すぐに散らかってしまう。
「整理する」っていても、どんなことをすればいいの？



使う物と使わない物に分類したり、置く場所を決めたりすることが大切なんだね。

- 3 ○自分の持ち物を実際に整理し、工夫点や改善点を見つける。



空き箱や仕切り板で、お道具箱の中がすっきりしたわ。
とっても使いやすそう。
家でもやってみたいな。



気持ちのよい状態を保つためには、どうしたらいいんだろう。
何かよい方法はないのかな？

- 4 ○汚れの種類や、場所に応じた掃除を計画して行う。



汚れには、いろいろの種類があるのね。環境にやさしい掃除方法ってあるのかしら。



こまめに掃除をしないと、体に悪影響も出てくるんだな。

家庭調査隊

「わが家の片付けイエローカード」

- 6 (本時) ○「わが家のクリーン大作戦！」の作戦会議をする。



家族みんなが使う場所で、何か工夫できることはないかな。

家庭チャレンジ

わが家のクリーン大作戦！「ビフォーアフター」

・身の回りの整理・整頓の仕方を理解している。

【家庭生活についての知識・理解】
(発言・ワークシート)

・身の回りの物の整理・整頓ができる。

【生活の技能】
(発言・行動観察)

・汚れの種類や汚れ方に応じた掃除の仕方について理解している。

【家庭生活についての知識・理解】
(発言・ワークシート)

・汚れの種類や汚れ方に応じた掃除ができる。

【生活の技能】 (行動観察)

・整理・整頓の必要性に気付くことができる。

【生活への関心・意欲・態度】
(発言・ワークシート)

・整理・整頓の仕方について考えたり、計画を立てて自分なりに工夫したりしている。

【生活を創意工夫する能力】
(発言・ワークシート)

言語活動の充実

2 グループで、各場所の問題点を出し合う。

○「玄関」「洗面所」に分かれて、グループで問題点を考えてみましょう。

(玄関グループ)

- ・お客さんが来たとき、見た目が悪い。
- ・使う物と使わない物がいっしょに置いてある。
- ・どこに何があるか分からず、探しにくい。
- ・ボールやバットなどでケガをする恐れがある。
- ・物がいたみやすい。

(洗面所グループ)

- ・どれがだれのものか分らない。
- ・使ったものや汚れをそのままにしておくと、衛生的によくない。
- ・コンセントにプラグをさしたままだと、火事になる恐れがある。
- ・出しっ放しにしておくと危険な物がある。

言語活動の充実

3 解決の糸口を出し合い、整理・整頓の仕方を話し合う。

○なぜこのようになるのか考えてみましょう。

- ・使いっ放しになっている。
- ・片付けや掃除をしていない。
- ・片付ける箱や入れ物がない。
- ・種類ごとにまとめられていない。

○整理・整頓の仕方を考え、グループでまとめていきましょう。

(玄関グループ)

- ・使わない物は、下駄箱や箱にしまう。
- ・箱にしまうことで、いたみを防ぐ。
- ・棚を一人ずつの専用の物にする。
- ・遊び道具を種類ごとに分けて片づける。

・散らかっている状態の写真を渡し、その問題点を出させることで、整理・整頓の必要性に気付かせる。

・整理・整頓の必要性に気付けたか。

【家庭生活への関心・意欲・態度】
(発言・ワークシート)

・なぜこうなるのか考えさせることで解決の糸口を見つけさせ、整理・整頓の方法につなげていく。

・まず一人で考えさせ、自分の意見を持たせる。(付箋を活用する)

☆「同じ種類の物はどれかな?」「箱に入れたらいい物はある?」と声を掛け、片付けるポイントをつかませる。

見通しを持つ		(洗面所グループ) ・種類ごとにまとめる。 ・引き出しや収納ボックス、トレイなどを活用する。 ・掃除をしやすいうように、ふきんやゴミ箱を用意する。	・付箋をシートに貼っていき、整理・整頓の仕方をまとめていく。	・原因に気が付き、整理・整頓の方法や工夫を考えることができたか。 【生活を創意工夫する能力】 (発言・ワークシート)
	4 整理・整頓のポイントを発表し合う。	○玄関グループと洗面所グループの「クリーン大作戦！ポイント」を聞きましょう。	・発表の間に出たポイントを板書し、実践において活用できるようにまとめる。	
	5 「わが家のクリーン大作戦！」を立てる。	○わが家の問題点を考えてみよう。 ・ <u>今の状態</u> ・ <u>その原因</u> ・ <u>計画</u>	・ワークシートに今の状況を出させることで、家庭での実践への意欲を持たせる。	
	6 次時の予告をする。			
	ゴミを減らす方法や、物を大切に生活の工夫について考えよう		・生活の工夫について見通しを持たせておく。	

8 板 書

「わが家のクリーン大作戦！」の作戦会議をしよう			整理・整とんのポイント
整理・整とんがされていないと… ・見た目が悪い ・使いにくい ・衛生的に悪い ・危険	(玄関)	(洗面所)	・<u>見た目を美しく！</u> ・<u>仕分ける</u>…いつも使う物 たまに 〃 使わない物 ・<u>分類</u>する…見た目、大きさ ・箱や仕切板で<u>区切る</u> ・こまめに<u>そうじ</u>する